ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。

そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。

そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。

▲吉富町防災パンフレット（平成26年3月作成）

第17回 災害に備えて

防災の日

9月1日は「防災の日」です。台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えを準備するためとして、昭和35年に制定されました。9月1日という日付は、大正12年のこの日に発生し、10万人以上の死者・行方不明者を出した関東大震災に由来しています。

また、「防災の日」を含む一週間（8月30日から9月5日まで）は「防災週間」と定められています。

吉富町の災害史

吉富町も、これまで多くの災害を乗り越えてきました。吉富町史（昭和58年発行）によると、明治から昭和にかけ、台風や長雨など数々の風水害が吉富町を襲い、山国川や佐井川の氾濫、堤防決壊による浸水被害や家屋流失、また時には死者を出すなどの甚大な被害をもたらしました。

特徴的なものとしては、周防灘を航行する船の目印として親しまれていた老松「天仲寺の船松」が倒れた明治10年の暴風雨、吉富町が現在の姿になったきっかけでもある明治22年の大洪水（「第3回　吉富町と中津市小祝」で紹介）、佐井川橋の橋脚が流失した昭和19年の大洪水（「第14回　佐井川橋」で紹介）、また、多くの人にとって記憶に新しい平成3年の台風17、19号などが挙げられます。

安全安心に向けての取組み

東日本大震災の発生以降、防災・減災の重要性はこれまで以上に意識され始めました。吉富町では、平成23年度に町内75箇所へ海抜表示板を設置し、全ての自治会が自主防災組織を結成しました。また、平成25年度からは全町を対象とした防災訓練を年1回実施しており、防災パンフレットやハザードマップによる周知、講演会等による意識啓発も行っています。更に、今年の5月には大規模な福岡県総合防災訓練（吉富漁港）を、6月にはその一環として緊急地震速報対応訓練（小学校）及び弾道ミサイルを想定した住民避難訓練（中学校）を実施しました（7月号掲載）。

先日、福岡・大分両県の一部市町村を襲った九州北部豪雨では、身近で起こった災害ということもあり、特に強い危機感を感じられた方も少なくないはずです。決して他人事ではありません。日頃から避難場所・経路を確認したり、備蓄品を準備しておくなど、いざという時に備えておくことが大切です。地域の防災力を高め、皆で災害に強いまちづくりを進めていきましょう。

▲全町対象の防災避難訓練